



(大阪西北部・大阪東北部)

本遺跡は堂島川と土佐堀川に挟まれた中之島の北岸に位置する。江戸時代には一帯に諸国の大名が蔵屋敷を構え、全国の経済や物流の中心となっていた。発掘調査は大阪市立近代美術館（仮称）の建設に伴う事前調査として、一九九五年度から毎年継続して行なわれてきた。調査地には広島藩蔵屋敷、およびその西に位置する久留米藩蔵屋敷の一部が含まれる。

これまでの発掘調査では、一九九五・九六年度の調査により、堂島川から広島藩蔵屋敷に船を引き入れる船入が良好に遺存することが確認され、一九九九・二〇〇〇年度の調査ではその船入遺構の全容が明らかとなつた。一九九七・八八年度には、広島藩蔵屋敷では中心的な建物である御殿や蔵、久留米藩蔵屋敷においても建物跡が検出された。

二〇〇一年度の調査では未調査であった地点を発掘し、その結果敷地のほぼ全域の遺構の状況が確認された。広島藩蔵屋敷跡では御殿や蔵、井戸、排水用の大規模な石組み暗渠など数多くの遺構が検出され、久留米藩側においても建物跡や広島藩側との敷地境の石組み溝などが確認された。

木簡は広島藩蔵屋敷の中心的建物である御殿の北西に位置する井戸SE七四六から木簡七点（うち一点は曲物底一枚）が出土した。井戸の上部は破壊され埋め戻されており、その下位に木製の桶による井戸側が残存していた。埋め戻し土の下部からは井戸側の木材や木製品、陶磁器などの遺物が出土している。出土した陶磁器からは、一八世紀後半には埋め戻されたと推測される。広島藩蔵屋敷については、幕末およびそれ以前とみられる新旧二種の絵図が伝わつており、発掘調査による検出遺構との関係が明らかになりつつあるが、この井戸は二種の絵図には見られず、先行するものである可能性がある。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「▽豊田郡上河内□□」 (193)×31×7 039
- (2) 「豊田郡大□□村七□□」 266×27×11 011
- (3) •「▽高田郡はぢ村南□□」
- (4) •「▽御調郡三成村大四組ふ四郎」
- (5) •「▽戊□□」 310×37×12 033
- 「賀茂郡□村□□国ひ□□」
- 「雲」 (320)×34×9 039
- 木簡は現在整理中であるため、遺存状況が良好な五点を紹介する。これまで当遺跡で出土した木簡より時期的にはややさかのぼるものではあるが(本誌第一九・一三三号)、郡名・村名が書かれる点で類似している。

(宮本康治・鳥居信子)

